たちばな新聞

水谷山寶清寺

平成二十八年度 お会式

十月 十二日（水） 十一時から

厳修致します。

当山は、日蓮宗総本山身延山久遠寺の末寺として約四〇〇年前に創建された歴史ある寺院です。この間、住職は二十五名、本堂内で様々な願いや感謝の祈りを捧げた人の数は数え切れない程大勢の方々がおられます。その地で、日蓮宗の宗祖日蓮大聖人への報恩感謝の祈りを第二十六世住職と共に捧げることは、それはそれは大きな功徳を譲り受けられることでしょう。さらには、そのお姿をそれぞれのご先祖様が温かく見守り下さることでしょう。そして参拝者には、そのつながりを心で感じてもらえると信じています。恩ある人に報いる生き方を目指すことこそ、命あるものとして何よりも大切なことだと思います。

当日は、法要後、たちばな会館にて参拝者全員にお弁当をご用意致します。参拝希望の方は、同封の専用ハガキに出席人数、お塔婆（一本三千円）を希望される場合は必要事項をご記入の上、お早めにご投函下さい。ぜひ、ご家族揃ってご参拝ください。

秋のお彼岸

九月十九日（祝月）～二十五日（日）

お塔婆を希望される方は、同封の専用ハガキにご記入の上、ご投函ください。

お会式とは？

日蓮聖人がお亡くなりになられた日（ご入滅の忌日）に営む法要です。「報恩講」「恩命講」「御命講」ともいいます。松尾芭蕉の句に「御命講や　油のような　酒五升」とあり、元禄の頃には江戸を代表するような盛大な行事になっていたことが伺い知れます。

もともとの「お会式」の意味は「法会の儀式」の略語であり、日蓮宗に限ったものではありませんが、現在では日蓮聖人の忌日に行う報恩会の事を指すようになっています。恩に報いるための心が日蓮聖人の法華経弘通の日々を支え、父母や師匠、さらには国に対しても同様でした。一生をかけて法華経の教えを説き、その教えの大切さを示された日蓮聖人に対し、今を生きる私たちがその恩に報い、感謝を捧げる法要がお会式です。

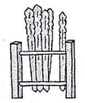
日蓮聖人は、弘安五年十月十三日に池上でお亡くなりになられました。毎年、全国の寺院でお会式が行われますが、池上本門寺のお会式は盛大で、お逮夜にあたる十二日の夜には数十本の万灯行列と共に、数十万人の参拝の列で街中が埋め尽くされます。東急池上線は臨時ダイヤとなり、街ぐるみ、企業ぐるみでお会式に取り組んでいます。深夜まで太鼓の音が絶えず、十三日の午前八時には日蓮聖人のご入滅の時、日昭上人が打ち鳴らした故事にならって「臨滅度時（りんめつど）の鐘」が貫首（住職）によって打ち鳴らされ、前夜から参籠している人々とともに往時を偲び、しめやかな法要が営まれています。

ぜひ、当寺のお会式にもご参拝下さい。

お塔婆とは？

今から約二五〇〇年前、お釈迦様のお墓として古代インド語で「塔」を意味するストゥーパが建てられました。

お釈迦様が亡くなられた時、この塔を建てて供養したのが「お塔婆」の始まりといわれています。仏教伝来に伴ってストゥーパも五重塔などいろいろ形を変化しながら、現在のお塔婆の形になったのです。塔婆（細長い板）を立てることが「善」とされており、「塔婆を立てる＝善を積む」といった行いによって、故人の冥福につながると考えられ、また自身の善い行いとしても奨励されています。施主や志のある方が故人の為に、ご命日や年回忌、春秋のお彼岸、お盆、お会式、お施餓鬼等の際に建てるものです。



平常心是道

住職ひと口法話　第四十七回

「平常心是れ道」（仏道にはとりたてて道というものはありません。日常のありのままの行為が道なのです。）という意味です。上記の色紙は、今年の七月十七日に行われた、お施餓鬼法要後の法話の為に揮毫したものです。法話では、日本人は「霊」を様々な形で捉えようとしたことから、小泉八雲「耳なし芳一」の武者の幽霊、中里介山「大菩薩峠」の男の幽霊、鶴屋南北「東海道四谷怪談」の女の幽霊の変遷を経て、足のない幽霊は円山応挙が描いて幽霊の具体的姿として定着し、明治以降は恨みは直接返せることの背景から、幽霊は出なくなり、心霊現象として霊を捉えるようになった事に触れ、ご先祖の霊に対して報恩感謝と慰霊の気持ちを込めた追善供養の大切さをお話しました。

更に現代の命を大切にしない犯罪が多いのは、利益には積極的に関わり、嫌なことは避けるという、非人間的な傾向、つまり、「人間疎外」の傾向に寄るところが現代人には多いのではないかと指摘し、色紙の言葉を解説しました。

この言葉は中国の唐の時代、無門関の第九則に趙州が南泉に「如何なるか是れ道。」と問いに答えた言葉です。

「道」には、ただ「道路」の意味だけではなく、日本の伝統文化の「茶道」、「華道」は、茶の心や花の美を究める意味が込められています。「道」には、他に「悟り」、「真理」、等の意味で使われることが多い。お釈迦様は、「過去を追わず未来を願わず、平凡で良い、今すべきことに徹して生きる事」なのだと説いています。

お檀家さんご紹介

《高木源一さん ご夫妻》

先代からの篤信のお檀家です。皆さんもご存じの境内にある大きな日蓮聖人や四天王などの銅像や本堂内右手の仏間にある木像を奉納された方です。過去には、秋川市議会議員などもされ市民の為に素晴らしい功績を残されました。現在は、手打ちうどん弁天屋の店主、八十六歳ですが、元気にお店を切り盛りしています。多才な店主は鯉釣りもお好きで、店の入り口には自ら釣った見事な鯉たちも迎えてくれます。お寺からも徒歩五分程度ですので、お気軽にお立ち寄りください。

《前田美代子さん》

あきる野市山田で四十年続く手打ちそば加賀屋の店主。二年半前にご主人を亡くされ、現在二人の娘さんとお店を守っています。先々代からこよなく愛するお店。常におもてなしの心で感謝の気持ちを忘れない優しい女将さん。居間には、当山二十四世宮崎英修上人ゆかりのお曼荼羅も奉ってあります。

☆店舗情報☆

弁天屋　あきる野市小川八四〇
☎〇四二―五五八―五三七八　定休　火曜

加賀屋　あきる野市山田九六二―一
☎〇四二―五九六―一六四八　定休　月曜

※二店舗ともこだわったものをお客様に提供するため、毎日限定数のみしかお出ししておりません。**ご来店前にお電話をして頂ければ幸いです。**

大募集

たちなば新聞では、お檀家さん同士のつながり向上のため「私、今こんなことしてます」の情報を募集します。お気軽に寺務所までご連絡ください。

発行　寶清寺　東京都あきる野市小川１０１　電話 042-558-2663　FAX 042-558-2693

日蓮聖人伝

「不惜身命の諫言」

先日、鎌倉に行く機会があった。真夏の焼けつくような日差しと、アスファルトの照り返しに、滅入りそうな気持ちで車から降りると、斜め向かいに涼感漂う木陰の一隅が目に飛び込んできた。誘われるように、そこにたどり着くと、石碑に「日蓮聖人辻説法跡」と書かれてあった。

再び鎌倉に訪れた聖人は、相次ぐ台風、大地震、大火災、飢饉、疫病、幕府による苦役や米価の高騰などにより、一寸先の闇にも戸惑い、のどの渇きに憂い、塗炭の苦しみに喘ぐ民衆を目撃した。

そこで、聖人はなにを思い、どのように語られたのであろうか。

聖人にとっても心穏やかならざる日々であったろう。むしろどのように救えばよいのか忸怩たる思いであったのかもしれない。しかし聖人は悶々と時を過ごすのではなく、自分のできうる限りの努力をし、仏教の解説書の執筆、弟子への教育や、辻説法もまた積極的になさったことだろう。

鎌倉に入り六年目に「守護国家論」を著作した。その書に引き続き翌年には「立正安国論」を最明寺入道（前執権北条時頼）に建白された。紙面の都合上詳しい説明は省くが、題号から見ると、「正しい教えに立脚すれば、国や民は安寧を得られる論」として、政治や宗教のあるべき姿、相次ぐ天災や人災がなぜ起こるのか、このまま放置すれば、国内では内乱がおき、外国から侵略され、国家も国民もいま以上の困難に直面するだろうと予言された。

結果的に二度におよぶモンゴル軍の侵攻（元寇）や、政争による内乱が発生してしまった。

聖人の建白により、ただちに行動を起こしたのは、幕府ではなく、浄土宗の宗徒らによる聖人襲撃事件（松葉ケ谷法難）だった。聖人は房州下総に逃れたが、翌年には鎌倉に戻られ遂に捕縛されてしまった。現在のような公正な裁判もないまま伊豆に配流（伊豆法難）された。

流刑となる聖人を由比ヶ浜で見送る弟子達は、大海に出る舟上の聖人に対し心細く思ったことだろう。

舟上の聖人と浜の弟子らは「宝塔偈」を唱和した。現在、抑揚のある節回しでこれを読み上げるのは、この時の名残だといわれている。

「宝塔偈」を唱える度に、波間に消え入る聖人の声が聞こえてくるような気がする。

宝清寺の草花

「それがしも
その日暮らしぞ
花むくげ」

この句は小林一茶が詠んだ俳句です。

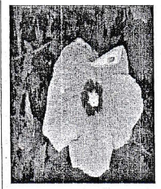
一茶は波瀾万丈の生涯を送りました。この句からも一茶の暮らし向きを伺い知ることができます。

木槿の開花時期は六月下旬から十月中旬までと、とても長期間ですが、花は朝早く咲き、昼前には萎んでしまいます。

長い間、花の見頃が続くことから、人によっては、「いつも咲いている」と思う人がいれば、「日暮し」と思う人もおり、花一つみて、自分と花の生涯を重ね合わせて写し出したこの句は、素晴らしい一句だと思います。

この木は垣根に使われることから背丈の低い木にみられますが、放置すると十メートルの高木になるそうです。

宝清寺では、たちばな墓苑休憩所の近くに咲いています。



秋彼岸会

暑さ寒さも彼岸まで、昼夜の長さが同じ（昼夜等分）になるのも彼岸の中日と言われています。

彼岸会では、「偏りがない日々」が大切なキーワードです。

人は見るものや聞くものなど（五感＝視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）によって好悪・善悪・良不良などを判断していますが、そのどちらかに偏ると、自分の心の均衡も失ってまいります。この偏りのある心が身体に影響を与えて、健康を損ねる原因にもなるのです。

例えば、嫌いな音を毎日聞かされていると、心が不愉快なだけでなく、身体の調子も悪くなってくるそうです。また、植物でも、ある一定の音楽を聴かせると、味や収穫量などに変化が生じると言われています。

私たちの日常は、平穏にみえても多くの変化に遭遇しています。毎日を忙しく送られている方は特に、肉体的疲労のみならず、精神的なストレスも多いことでしょう。

彼岸の墓参りは、御先祖様の冥福を祈るとともに、神仏や御先祖様に、自分の心の安寧をご祈念し、リフレッシュされてお帰りください。

編集後記

論語に『温古知新』という言葉がある。意味は「古きを訪ね、新しきを知る」ということだ。

昨今の相次ぐ天災や人災を日蓮聖人が見られたらなんと言われるだろうか。聖人は鎌倉の惨状を目撃し、智慧の宝庫である仏教経典を紐解き、その解決策を見いだしたが、その声に耳を傾ける為政者は、僅かであった。

新しいものへの理解はいつの世においても、なかなか受け入れられないものである。ましてや自己にとって不利益になりかねないものへは、その抵抗も大きく、いわれなき排除の対象とされてしまう。

また、その逆の考え方もあり、私達はややもすれば、新しいものを良しとして、古いものを簡単に捨ててしまう傾向にもある。

これも論語の一文になるが、

「子曰く、父在せば其の志を観、父没すれば其の行を観る。三年父の道を改むる無きは、孝と謂ふ可し」

ある。曇りなき眼で、過去を観察し、現状を把握し、未来への正しい行動の指針とすべき訓示だと感じる。

釜締札

新年を迎えるにあたり、家屋をお守りするお札（通称、釜締め札）をお授けする時期がまいりました。

毎年十一月頃より受け付けを開始し、十二月下旬にお渡しをしております。ご希望の方はお申し出ください。

・台所＝普賢三宝荒神
・便所＝烏芻沙摩明王
・井戸、神棚等にお祀りする神様や、幣束もご用意してございます。また、交通安全札も新年にあわせて受け付けております。

宝清寺の年中行事

三月彼岸中日	塔婆供養
四月八日	花祭り
七月十日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	塔婆供養
十月十二日	お会式法要

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始顕会
八月二十日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十月十二日	小松原法難会

御祈願・御供養

交通安全	商売繁盛
虫除封	方位
開運祈願	安産祈願

浄行菩薩
絵馬頒布中

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二―五五八―二六六三
FAX・〇四二―五五八―二六九三
インターネットホームページ
http://www.ab.auone-net.jp/housei/
メールアドレス
housei@ec.auone-net.jp